

『歴史手帖』6-11

松田 猛 (1973) 「釧路地方におけるチャシコツ」

『釧路川流域の遺跡』

松田伝十郎 (1822) 『北夷談』 (高倉新一郎編『日

本庶民生活史料集成』4 1969所収)

浦幌町における蝶類の出現期

——特にタテハチョウ科についてII——

円子 紳一

▼イチモンジチョウ

Ladoga camilla japonica Ménétrières



採集地：帯 富
採集年月日：1972.7.9.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

本州では年2~3回発生するが、北海道では年1化となる。浦幌での発生は、7月上旬から8月中旬に記録されている。

▼コムスジ

Neptis sappho intermedia W. B. Pryer



採集地：帯 富
採集年月日：1973.5.27.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

浦幌における発生は6月から7月上旬が普通で、年1化である。Table 1の8月中旬とあるのは、1976年8月15日の記録で、年によっては部分的な2化の発生も考えられる。『北海道の昆虫』(田辺、1979)によると、道内では年2回の発生とされている。

▼ミスジチョウ

Neptis philyra excellens Butler



1971.8.16.
採集地：福 山
採集年月日：1971.8.16.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

浦幌における採集例は、1965年8月11日(阿部

宏氏)、1971年8月16日(筆者)の2頭しかない。いずれも汚損した個体であることから、実際の発生はもっと早いものと思われる。

▼フタスジチョウ

Neptis rivularis aino Shirôzu



採集地：千 歳
採集年月日：1971.6.26.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

6月中旬から8月にかけて普通に見られる。年1回の発生で、全国的な発生期と殆ど同じである。

▼アカマダラ

Araschnia levana obscura Fenton



(春型)

採集地：新 町
採集年月日：1971.5.19.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵



(夏型)

採集地：万 年
採集年月日：1971.8.7.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

北海道特産種。春型と夏型で斑文が非常に異なり、別種かと疑うほどである。

浦幌における春型の発生は4月下旬から5月下旬。夏型は6月から7月にかけてで、道内の一般的な発生より1ヵ月ほど早い傾向にある。

また、1973年には9月16日という遅い記録があるが、第3化の発生か？

▼サカハチチョウ

Araschnia burejana strigosa Butler

(春型)



採集地：万 年
採集年月日：1976.5.24.
採集者：松本 尚志
浦幌町郷土博物館所蔵

(夏型)



採集地：住 吉 町
採集年月日：1976.8.8.
採集者：松本 尚志
浦幌町郷土博物館所蔵

年2回の発生。春型と夏型を産し、共に前種によく似ているが、発生期は若干遅い。春型は5月中旬から出現するが、6月中・下旬に夏型と交替する。

▼コヒオドシ

Agldis urticae connexa Butler



採集地：帯 富
採集年月日：1973.7.22.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

年1回の発生で7月から8月によく見られるが、成虫で越冬するため、4月から5月にかけてもその姿を見ることができる。

▼クジャクチョウ

Inachis io geisha Stichel



採集地：帯 富
採集年月日：1973.4.8.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

年2回(6~8月、8~9月)の発生が普通とされている。浦幌における発生もほぼ同じものと思われるが、成虫で越冬することから、11月に入っても暖かな日には山道に姿を現わし、翌3月末には春の陽ざしの中であでやかな舞いを見せてくれる。

▼ヒメアカタテハ

Vanessa cardui Linnaeus



採集地：帯 富
採集年月日：1972.10.7.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

8月上旬から姿を現わし、9月から10月にかけて

種名	月別	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
イチモンジチョウ										
コミスジ										
ミスジチョウ										
フタスジチョウ										
アカマダラ										
サカハチチョウ										
コヒオドシ										
クジャクチョウ										
ヒメアカタテハ										
アカタテハ										
ルリタテハ										
エルタテハ										
キベリタテハ										
シータテハ										
コムラサキ										

Table 1

タテハチョウ科の出現期

て個体数を増す。年1化であるが、成虫で越冬するため春にも出現する。

一般に個体数は少ないが、全世界に分布していて、代表的な *cosmopolitan species* (汎世界種) として知られている。

▼アカタテハ

Vanessa indica Herbst



採集地：光 南
採集年月日：1971.10.24.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

東京では6月中旬、九州では5月中旬から第1化が発生し、晩秋まで発生を繰り返す。沖縄では周年発生すると考えられている。

浦幌では8月上旬から9月下旬に発生する。前種と同じように成虫越冬することから、春にも出現しているはずである。

▼ルリタテハ

Kaniska canace no-japonicum von Siebold



採集地：炭 山
採集年月日：1980.5.24.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

北海道では年2回の発生と考えられているが、東京より南下するにつれ発生回数が増える(3化～周年)。

浦幌での確認記録は、8月11日(阿部宏氏・採集年不明)と1971年6月6日(円子)、1980年5月24日(同)の3度しかない。1980年に採集したものは翅が汚損していて、越冬したものである。

▼エルタテハ

Polygonia van-album samurai Fruhstorfer



採集地：帯 富
採集年月日：1974.3.31.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

年1回の発生。8月から9月に多く出現する。また、越冬した成虫は早い年では3月下旬、普通

4月にはその姿を現わす。

▼キベリタテハ

Nymphalis antiopa asopos Fruhstorfer



採集地：円 山
採集年月日：1965.9.10.
採集者：阿部 宏
浦幌町郷土博物館所蔵

年1回の発生。普通8月に羽化最盛期を迎えるとされているが、浦幌では個体数が少なく、採集例もわずかである。

越冬した成虫は5月下旬から見られる。

▼シータテハ

Polygonia c-album hamigera Butler



採集地：常 室
採集年月日：1965.8.2.
採集者：阿部 宏
浦幌町郷土博物館所蔵

本州以南では夏型(第1化)、秋型(第2化)の年2回の発生とされているが、北海道では年1化で、早く出るものは夏型に、遅く出るものは秋型になるらしいと言われている。

浦幌での出現は5月下旬から10月中旬まで断続的に確認されている。

5月・6月の出現は越冬成虫で、その後は夏型・秋型と順次発生するものと思われる。

▼コムラサキ

Apatura ilia substituta Butler



採集地：福 山
採集年月日：1971.8.16.
採集者：円子 紳一
浦幌町郷土博物館所蔵

本州以南では年2化(一部では3化)とされるが、北海道では年1回の発生である。浦幌では7月下旬から8月中旬に発生する。

(浦幌町農業協同組合営農部)

引用参考文献

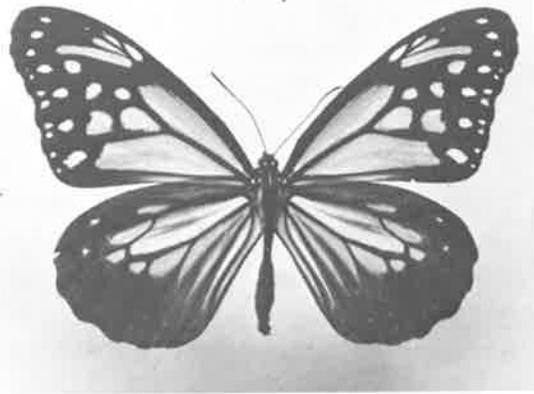
白水 隆(1971)『原色図鑑 日本の蝶』東京

田辺秀男 (1979) 『北海道の昆虫』 札幌
 藤岡知夫 (1972) 『図説 日本の蝶』 東京
 松本尚志 (1975) 「浦幌町における蝶類の分布」
 『浦幌町郷土博物館報告』 7
 浦幌

円子紳一 (1973) 「浦幌町の蝶類レポート I」『浦幌町郷土博物館報告』 2 浦幌
 ——— (1976) 「浦幌町郷土博物館所蔵の阿部宏氏の蝶標本」『浦幌町郷土博物館報告』 7 浦幌

アサギマダラ 2 頭を採集

円子紳一



1980年6月1日、浦幌町字万年と同町字留真でアサギマダラ—*Parantica sita nipponica* Moore——を採集した。浦幌町における初めての採集記録であり、ここに報告する。

1—VI—1980 1♀ 十勝郡浦幌町字万年
 1—VI—1980 1♀ 十勝郡浦幌町字留真

万年での採集は、朝8時に採集にでかけ、ホンバヒョウモン、カラフトヒョウモンがねらいたったが、雲が多く1頭も採集できず帰ろうとしたとき、本種が頭上から突然舞い降りて、葉の伸びきっていない小枝に静止したところをネットした。

留真では、ジョウザンシジミを採集しながら歩いているとき、前方のタンポポで吸蜜中の本種を発見した。近づくとも一度高く舞い上がったが、間

もなくタンポポに静止したところをネットした。道東における本種の採集記録は、釧路管内厚岸町がある(藤岡、1975)が、偶産蝶と考えられている。

また、北海道では渡島半島以外では土着していないと考えられている。

今回の発見は、発生期が早く、新鮮な個体であること(青森県では5月下旬~6月に第1化)などから偽産蝶として片付けるのは早計な感じもする。

いずれにしろ、第2化の発生と来年以降の確認が待たれる。

(浦幌町農業協同組合営農部)

引用参考文献

白水 隆 (1971) 『原色図鑑 日本の蝶』
 藤岡知夫 (1972) 『図説 日本の蝶』
 ——— (1975) 『日本産蝶類大図鑑』

1980年6月1日 印刷
 1980年6月15日 発行
 編集 後藤 秀彦
 発行責任者 家村 克行
 発行所 浦幌町郷土博物館 (089-56)
 北海道十勝郡浦幌町字東山町23番地
 印刷所 大同出版紙業株式会社 (080)
 北海道帯広市西7条南6丁目